連載 ＷＨＯヘルスプロモーションとは何か？

第８回 順天堂大学国際教養学部グローバル・ヘルスプロモーション・リサーチセンターの設立の経緯

順天堂大学名誉教授・広島国際大学客員教授
日本ヘルスプロモーション学会会長
日本ＨＰＨネットワークＣＥＯ
島内　憲夫

１．順天堂大学国際教養学部グローバル・ヘルスプロモーション・リサーチセンターの設立の経緯

世界に目を転じてみれば、1986年「ヘルスプロモーションに関する憲章」が提唱されたときに、WHO ヨーロッパ・地域事務局のイローナ・キックブッシュ博士に出会ったことは、私の日本でのヘルスプロモーション活動を大きく広げるきっかけになった。私が創設し推進していた「健康社会学」[1] が、世界に役立つことを認識させてくれたターニング・ポイントであった。

順天堂大学体育学部の改革のためにイギリスを1990年に訪問した際に、ウエールズ医科大学大学院のドン・ナットビーム教授と出会ったことも大きな転換点であった。この出来事を契機として、私は『Health Promotion International』誌の編集委員を引き受けることになったからである。以後、世界の新しいヘルスプロモーション情報を日本に紹介できるようになり、日本のヘルスプロモーション・ムーブメントを一層容易にした。

WHO 西太平洋地域事務局のローズマリー・エルベン博士（心理学者）との出会いは、順天堂大学にヘルスプロモーション・リサーチ・センターを設置する意欲を私にもたせてくれた。

私は1992年に順天堂大学ヘルスプロモーション・リサーチ・センターを設立したが、1993年から西太平洋地域事務局より「健康行動とヘルスプロモーション」を課題として WHO 指定研究協力センターの指定を受けた。初代所長は医学部公衆衛生学教室の福渡靖教授、２代目は医学部衛生学教室の稲葉裕教授、３代目はスポーツ健康科学部長の青木純一郎教授、そして４代目はスポーツ健康科学部教授の私であった。2007年に所長職に就くまで、設立当初からコーディネーターを務め、コンテンポラリー・アドバイザーとして西太平洋地域（タイ・フィリピン・中国・オーストラリアなど）でヘルスプロモーション活動を推進した。

しかしながら、2015年にスポーツ健康科学部を退職することになったため、WHO 指定研究協力センターは閉鎖になった。現在は学校法人順天堂理事長の小川秀興先生に許可を頂いて、16年に順天堂大学国際教養学部にグローバル・ヘルスプロモーション・リサーチセンター（以下 JGHPRC）を再設置し、初代の所長を2021年３月まで務めた。コーディネーターは准教授の鈴木美奈子先生であった。現在は国際教養学部教授の湯浅資之先生が所長を務めてくださっているが、コーディネーターは鈴木美奈子先生である。イローナ・キックブッシュ博士とドン・ナットビーム博士も本センターの顧問を務めている。

２．ＷＨＯ指定研究協力センターとして再指定に向かって

JGHPRC は、今後 HPH の研究推進を中心として WHO 指定研究協力センターの再認定を受ける予定である。理由は現在、私が日本 HPH ネットワークの CEO をしていることと、順天堂大学国際教養学部客員教授のハンヌ･ターネセン博士（スウエーデンのルンド大学）が、WHO の HPH ネットワークのトップであること、同じく順天堂大学国際教養学部客員教授のイローナ・キックブッシュ博士が WHO シニア・アドバイザーであること、そして順天堂大学国際教養学部客員教授のドン・ナットビーム博士が WHO&WB のコンサルタントを務めていることから、絶大なる支援をいただ

259981民医連医療2月号[1-28].indb 44 2021/12/23 14:53:24

けることが約束されているからである。

3．グローバル・ヘルスプロモーターの認定とその役割

国際教養学部グローバルヘルス・サービス領域の１期生のなかで成績優秀な学生11人に「グローバル・ヘルスプロモーターの認定書」を本センターの所長として2019年３月に授与した。

これは、グローバルヘルス・サービス領域の学生の価値を高めるための戦略である。なお、現所長の湯浅資之教授と話し合った結果、WHO 指定を受けた後は、本センター主催の講座を一般向けに開講し、グローバル・ヘルスプロモーターの認定書を授与する予定である。ここで、グローバル・ヘルスプロモーターの役割について、述べておきたい。

ヘルスプロモーションの役割は、健康的な組織やコミュニティーを開発するところにある。健康的な公共政策や支援的な環境の必要性を唱道し、人々が自らの健康やその決定要因をコントロールし、改善することを可能とすべきなのである。ヘルスプロモーションの最終的な産物は、単に健康を改善するだけでなく、well-being を高めるところにあり、そのために必要な個人やコミュニティーのエンパワメント（力量形成）を高めることでもある。

グローバル・ヘルスプロモーターは、次のようなスキルを身に着ける必要がある[2)]。それは、①リーダーシップ・スキル、動機づけの能力、②ティームづくり、ファシリテーター技術、③健康のためのパートナーシップと連携をつくる協同の技術、④関係者（ステークホルダー）間の葛藤を解決し、交渉（ネゴシエイト）できる能力、⑤パートナーやコミュニティーの意見を聞く技術やコミュニケーション技術、⑥管理運営の過程をよく理解する能力、である。

4．健康をつくっていくアプローチ

ヘルスプロモーターが健康をつくっていくためのアプローチについて考えてみよう。

Simmet は、組織的なアプローチを導くために必要な７つの要素について要約している[3)]。それは、①幅広い組織活動とコミュニティーとの関連、②身体的・精神的・社会的側面を含む健康の幅広い視点、③健康の決定要因の理解、④エンパワメントの概念、⑤パートナーシップのアプローチ、⑥参加へのコミットメント、⑦連携と win-win 状況をつくるための準備である。これらは、グローバル・ヘルスプロモーターの訓練や教育の重要な部分を表しているし、公衆衛生や保健部門の技術と密接に関係しているのである。

5．ヘルスプロモーションの関心

あらためて、ここでヘルスプロモーションの関心について述べておきたい。

ヘルスプロモーションは、社会のなかのあらゆる場（セッティグス）で、健康を改善することに関心がある。そしてセルフエスティーム（自己肯定感）を増大させながら、個人やコミュニティーをエンパワーしたり、社会的要因を見つけたり、社会資源を創造したりする。さらにそれらと健康との関係を明らかにすることによって、人々の健康を支えていくのである。ヘルスプロモーションは、解釈するのではなく、解決することに関心がある。それは健康はともに産み出すものだからである。だからこそ、協同を必要としているし、学び続けなければならないのである。そこに、ワクワクする価値があると思う。

〈参考文献〉

１）島内憲夫著：健康社会学～理論体系モデル試論～、垣内出版、2021.
２）イローナ・キックブッシュ（島内憲夫訳）：ヘルスプロモーターの役割、日本健康教育学会雑誌、第１・２号、P.4,2000年
３）イローナ・キックブッシュ（島内憲夫訳）：前掲書２）、P. ３.

（本稿は、第９回日本健康教育学会でのイローナ・キックブッシュの特別講演の要旨を私が翻訳したものに基づいている。日本健康教育学会雑誌第８巻第１・２号、2000年）

259981民医連医療2月号[1-28].indb 45 2021/12/23 14:53:24